

青森県海区だより

(発行 2007年12月27日 第21号)

〒030-8570 青森市長1 1 1
 青森県海区漁業調整委員会事務局
 TEL 017-734-9851
 FAX 017-734-8166
 e-mail Kaiku@pref.aomori.lg.jp
 HP http://www.pref.aomori.lg.jp/kaiku/



活彩あおもり

青森県の海洋生物資源の保存及び管理に関する 平成20年計画の変更が国から承認される。

11月22日県庁内において、平成19年度青森県漁獲可能量管理協議会が開催されました。最近のTAC対象魚種等の資源動向及び漁獲状況や平成20年の漁獲可能量及び国の基本計画について説明がなされた後、平成20年の青森県計画(案)について協議を行い、原案どおり承認されました。

これを受けて、平成20年の青森県海洋生物資源の保存及び管理に関する計画(案)については、11月28日、29日の西部及び東部海区漁業調整委員会に諮問があり、原案どおり議決し、両海区の委員会会長から県に答申しました。

その後、12月14日付けで農林水産大臣から青森県の計画が承認されました。

海洋生物資源の保存及び管理に関する法律に基づき、国から青森県に配分された数量は、平成19年度と同様にするめいを含む5魚種(すけとうだら・まあじ・まいわし・まさば及びごまさば・するめいか)とも『若干』となっています。

水産庁がまとめたTAC対象魚種のうち、マイワシ、マサバ、ゴマサバ、スケトウダラ、スルメイカの最近の資源動向については、次ぎのとおりです。

魚種・系群名	資源水準傾向	漁業の特徴
マイワシ太平洋系群 	低位 横ばい	近年の漁獲の多くは、房総から常磐海域の大中型まき網により揚げられている。太平洋側各海域中小型まき網や定置網等の漁獲対象になっている。
マサバ太平洋系群 	低位 増加	三陸から常磐海域の大中型まき網が、秋から春期に索餌群と越冬群を対象に漁獲している。
ゴマサバ太平洋系群 	高位 減少	まき網漁業、火光利用さば漁業、定置網漁業、釣り漁業によって周年漁獲される。漁業種別漁獲量は、まき網漁業が最も多い。
マアジ太平洋系群 	中位 減少	まき網による漁獲量が全体の約90%を占め、定置網が約10%でこれに次ぐ。千葉県以北の海域では、秋から初冬が主漁期で、1歳魚以上の漁獲が多い。
スケトウダラ日本海北部系群 	低位 減少	主漁場は、北海道西部海域であり、本州日本海北部海域における近年の漁獲量は、1千トン程度である。
スケトウダラ太平洋系群 	低位 減少	主漁期は、9月から翌年3月で、主漁場は三陸地方、渡島から胆振地方及び十勝から釧路地方の沿岸である。
スルメイカ冬季発生系群 	中位 横ばい	本系群の漁獲は、7月より常磐・三陸太平洋沿岸で始まり、9月から11月には北海道太平洋沿岸域が主漁場となる。11月以降は、日本海側に主漁場が移動し、漁期の最後は、九州北西部で12月から翌年2月となる。
スルメイカ秋季発生系群 	中位 減少	主にいか釣り漁業では、5月から10月に漁獲される。沿岸域では、小型いか釣り漁船(30トン未満)によって、多く漁獲され、生鮮品として水揚げされる。このほか、定置網や底びき網でも漁獲される。

平成19年度資源評価票(ダイジェスト版)から抜粋

平成19年度青森県水産試験研究成果報告会開催

青森県の水産関係試験研究機関による試験研究成果報告会が、12月14日県庁西棟8階大会議室において開催され、青森県水産総合研究センター坪田哲所長の挨拶の後、成果報告があり、活発な質疑討論が行われました。



青森県水産試験研究成果報告

開催月日：平成19年12月14日(金)
 開催場所：県庁西棟8F大会議室
 出席者：青森県水産総合研究センター、増養殖研究所、内水面研究所、青森県ふるさと食品研究センター、下北ブランド研究開発センター、各漁業団体、市町村、水産局長、水産振興課、農林水産政策課、漁港漁場整課、県八戸・むつ・鱈ヶ沢水産事務所、青森地方水産業改良普及所、海区事務局外120名
 研究成果報告：課題・所属機関・発表者名

「ヒラメの数はどのようにして決まるのか。」 ヒラメ着底稚魚調査とコホート解析から見た資源変動特性」 水産総合研究センター 資源開発部 吉田 雅範 主任研究員
「スルメイカ早期漁況予測の試み」 水産総合研究センター 漁場環境部 黄金崎 栄一 主任研究員
「ホタテガイ養殖付着物(コウレイボヤ)対策試験」 増養殖研究所 ほたて貝部 吉田 達 主任研究員
「ナマコの流通について」 増養殖研究所 魚類部 廣田 将仁 技師
「サクラマス資源増大に向けて一河川での取り組みについて」 内水面研究所 調査普及部 東野 敏及 技師
「ウスメバルの鮮度維持及び消費市場における評価」 ふるさと食品研究センター 水産食品化学部 白板 孝朗 技師
「キアンコウ筋肉の死後変化に及ぼす致死条件と貯蔵温度の影響」 下北ブランド研究開発センター 研究開発部 油野 晃 技師
総合討論：座長 塩垣 優(増養殖研究所 研究調整監)

大型クラゲ情報

12月26日までの大型クラゲの出現は、島根県の定置では一部減少傾向ですが、1000個体を超える地域も引き続きあります。若狭湾も場所により依然1000個体を超えています。本年は、昨年に比べて移動が遅いという傾向があります。各海域とも出現のピークは数週間から1ヶ月程度昨年より遅くなっています。この傾向で推移すると、各海域でまだ出現が継続する可能性があります。(社)漁業情報サービスセンター・大型クラゲの出現情報から抜粋)

編集後記

委員、関係各位の皆様には、今年1年大変お世話になりました。平成20年は、海区漁業調整委員会及び内水面漁場管理委員会の委員の改選時期です。新しい年が良い年になるようにご祈念申し上げます。(海区事務局職員一同)